

「欠品なし」強みに

外食・中食20社以上に

JA 豊橋

加工・業務用キャベツの集荷場で一元集荷を行い、ここから実需者に向けて配送する

JAあいち経済連を通じて20以上の外食・中食企業に販売する。メインとなる秋冬期(11月～4月)は、とくに厳寒期の生育が不安定となりがちだが、課題解決に向けた品種選定や栽培管理などにより、取組み開始からこれまでに欠品がなく、実需者の信頼を得ている。

\* \* \*

豊橋地域から渥美半島にかけては、全国有数の秋冬キャベツ大産地。JA豊橋管内では、市場出荷を中心に約600人がキャベツ栽培を行う。2015年の出荷量は4万

J A みに JA 豊橋

鉄コン出荷に取組む前は、業務・加工用として格が低いことに加え、申告した時期に申告通りの出荷を行っていた。しかし、生食用に比べて価格が低いことに加え、申告した時期に申告通りの出荷をしなくてはならないなどの理由から規模拡大にはつながらなかつた。一方で業務・加工用の需要は高まるばかりで、経済連の主導によりJA愛知みなみに続き鉄コンの導入に踏み切つた。

まずは9人の生産者で取組みをスタート。「最初の3～4年は半信半疑の生産者が多かつたが、ダンボールの組立てや、収穫時の選別の手間が軽減できるメリットは大き

く11年頃から本格化した」(営農部の土屋博氏)。また、期間中一定価格であるにもかかわらず、経営安定化をめざす生産者にてつてメリットが大きい。現在、業務・加工用に取組む生産者は当初に比べて倍増。そのほとんどが製作付けの7~8割を業務・加工用に充てている。JAの出荷量も増加し、09年の177㌧から14年は1894㌧となった。

取引の流れは、5月に次年度の概算出荷計画を取りまとめ、それをもとに経済連が実需者との調達の調整を行う。10月には年間出荷計画を立て、契約数量が確定される。シーズンが始まると、JAでは生産者とともに定期的に、販売状況・品質評価、栽培状況の確認・

融通も認めている。一方、実需者ニーズに応えようとJAでは生産者と定期的に工場を視察し、情報交換を行つてい  
る。実需者からは「外葉はそり葉一枚」「歩留まりのいい玉」「異物（病害虫など）混入がない玉」が求められ、これを踏まえ  
て業務・加工用に準じた選別基準を作成。1kg以上の中のものを出荷しているが、「より大きく、重く、歩留まりのいいものをと栽培に取組む生産者が多く」という。  
しかし、とくに1月～2月に収穫する作型が不安定となりがちで、安定供給が課題。1月収穫分は低温伸張性のある品種

タイミングでの中耕や施肥を行つ」となどで計画的行動を確立していく。



が不安定となりがちだが、課題解決に向けた品種選定や栽培管理などにより、取組み開始からこれまでに欠品がなく、害虫の信頼を得ていてる。

鉄コン出荷に取組む前は、業務・加工用として10キ、15キダンボールでの出荷を行っていた。しかし、生食用に比べて価格が低いことに加え、申告した時期に申告通りの出荷をしなくてはならないとの理由から規模拡大にはつながらなかつた。一方で業務・加工用の需要は高まるばかりで、経済連の主導によりJA愛知のみならに続き鉄コンの導入に踏み切つた。

まずは9人の生産者で取組みをスタート。「最初の3~4年は半信半疑の生産者が多かつたが、ダンボールの組立てや、収穫時の選別の手間が軽減できるメリットは大き

（営農部の土屋博士） 11年頃から本格化し、また、期間中一定の規格であることも、経営の合理化をめざす生産者にとってメリットが大きい。生産者は当初に比べて倍増。そのほとんどが大規模な工場で、付けの7～8割を業者用に充てて、加工用に充てて、Aの出荷量も増加していく。年度の概算出荷計画を作りまとめ、それをもとに経済運営が実需者との調整を行って、10月に年間出荷計画を立て、約数量が確定される。シーズンが始まると、丁度、栽培状況の確認、販売状況、品質的には生産者とともに定期的に、

情報交換を行う。契約を行に向け、生産者同士の融通も認めている。  
一方、実需者ニーズに応えようとJAでは生産者と定期的に工場を視察し、情報交換を行つてなる。実需者からは「外森はそり葉一枚」「歩留まのいい玉」「異物（病害虫など）混入がない玉」を求められ、これを踏ま

え虫集りに産業化され、選別基準を作成。1月以上ものを出荷しているが、「より大きく、重く、歩留まりのいいものをどう栽培に取組む生産者が多い」という。  
しかし、とくに1月～2月に収穫する作型が不安定となりがちで、安定供給が課題。1月収穫分は低温伸張性のある品種

を中心導入し、適切なタイミングでの中耕や施肥を行つことなどで計画的数量の確保をめざす。一方、暖冬の場合なども考慮し、異なる特性をもつて品種を組合わせてリスク分散を図る。今後はさらなる安定出荷と品質の維持に向け、数年かけて品種の特徴、作型、栽培技術を確立していく。